

第1回 大村市新庁舎建設候補地検討委員会 議事要旨

- 1 日時 令和3年7月16日（金）14時30分から16時00分まで
- 2 場所 大村市コミュニティセンター第1会議室
- 3 出席者 委員11名（欠席委員なし）
事務局 大村市総務部総務課新庁舎整備室

4 議事要旨

- (1) 市長あいさつ
- (2) 自己紹介
- (3) 委員長の選任
宮原委員（長崎総合科学大学名誉教授）
- (4) 副委員長の選任
中村委員（大村商工会議所会頭）
- (5) 検討体制・予定スケジュールについて

○質疑

委員：設置要綱について説明があったが、本委員会の役割として、場所の検討だけでなく、新庁舎の機能についても検討する必要があるのかを明確にしてほしい。

事務局：本委員会では、機能面の検討までは求めている。安全性、利便性、経済性等の評価指標に基づいて建設候補地として最も適当な位置を選定してほしい。

委員：スケジュールについて、令和9年度までの流れがあるが、これは決定事項なのか。

事務局：令和9年度までには供用開始をしたいということで、進めている。

委員：来年の秋に新幹線駅が開業する。候補地を検討する際に、そうした要因を見定める必要はないのか。そうしたことも並行して進めていく必要があると思う。

事務局：令和9年度の供用開始を目指す理由として、庁舎本体が老朽化しており、耐用年数からみてもほぼ限界に近いというのがある。令和9年度までのスケジュールで、耐用年数までに建替えることができる。

新幹線事業については、具体化するまでにある程度期間がかかり、具体化してから新庁舎の着手となると、新庁舎の建設が何年も遅れることになるので、このスケジュールで進めていきたい。

委員：候補地について、市役所が目指すものを決めて検討する必要があると思う。デジタル化の推進、スーパーシティの構想などを踏まえ、場所の広さだけでなく、新幹線等々、連携が取りやすい場所を判断するものと思っていたが、今回は地質調査の結果等だけで判断するのか。委員としてどのような観点で判断すべきなのか。

事務局：建設候補地を決定する中で、とりまく環境として、働き方改革、ICT、窓口の在り方、そういったところも課題としてある。現在、並行して今後の新庁舎に向けた方向性を整理している状況である。

(6) 市庁舎の現状と課題・建替えの必要性について

○質 疑：なし

(7) これまでの経過について

○質 疑

委員長：市民アンケート調査は、どのような質問項目を設けたのか。

事務局：本年2月に実施した市民アンケート調査は、現庁舎の利用状況と、新庁舎の建設候補地に関することの2点をお尋ねしている。

現庁舎の利用状況に関する項目は、前回の基本計画を策定した際の市民アンケート調査とほぼ同じ内容で、来庁頻度、来庁用件、来庁までの交通手段などについて尋ねている。建設候補地に関する項目は、まだ各候補地の評価が完了していない状況なので、今回選定した7か所で、今後事業を進めてよいかという尋ね方をしている。

加えて、7か所の候補地について、ふさわしくないと思う場所、追加してほしい場所について質問をしている。強調する点として、7か所の候補地でよいという意見が約8割であったところである。

委員：7か所の建設候補地について市民アンケートを実施したということだが、アンケートは取り方によっては方向性をもって結論を導くことができる。市民アンケート資料を委員会で共有することはできないのか。

事務局：結果については、広報紙で報告させていただいている。それよりも詳しいものが必要であれば、こちらから次の会議で提示したいと考えている。

(8) 建設候補地について

○質 疑

委員：建設候補地の中に、公園やスポーツ広場、市民プールなどがあるが、こうした場所が候補地となった場合、代替施設は整備する方針であるという前提で議論していいのか。

事務局：既存施設については、1つの課題である。現庁舎周辺以外には公園、スポーツ広場等が存在し、多くの市民が利用している状況である。新庁舎整備がその利用に影響を与えないように配慮する必要があるため、今後、各施設の利用状況を調査して、代替施設整備の必要性、整備する場所、事業規模などについて検証していきたいと考えている。原則として、代替施設は整備する方向で調整していくよう考えている。

委員：7か所に絞られた経緯についてだが、新大村駅周辺については、最後に7か所から外れた理由として、今後の整備方針が明確なためとあるが、今からプロポーザル等があり、実際にできるかどうかわからない状況である。その中で外すのは乱暴なように感じる。

先ほども質問したが、新大村駅の計画がうまくいけばいいが、最初から除くのはどうなのか。行政上、仕方がないのかもしれないが、少し違和感がある。

事務局：新大村駅周辺については、現在、事業者を公募中である。どういう形になるかはまだ不明だが、新大村駅の土地については、全体的に一括して民間に売却し、民間活用によってまちづくりを展開していこうという考え方で進めているため、ここに市役所を建てるという考えは市として持っていない。新大村駅の土地については、今まで大学誘致の話があったが、断念せざるを得ない状況となり、そこが整理されてからの今回の公募開始となっている。

新大村駅周辺については、建設候補地から最後に外したのではなく、様々な状況を踏まえて建設候補地を選定していく過程の中で外したということをご理解いただきたい。

委員：市民アンケート調査について、次回提示するとあったが、この7か所について、アンケートの回答率、ここにはこれだけの賛同があった等、そうしたものは提示できるのか。

事務局：設問の仕方として、7か所について、この7か所でよいか、ふさわしくない場所があるか、追加したい場所があるか、関心がないかの4つの選択肢を提示した。アンケート全体の回答率が45%で、そのうちの約8割の方が7か所でよいと回答されている。次回の会議である程度わかる資料を提示したい。

今回のアンケートは、従来よりも人数を増やして、地区ごとにある程度データをとれるようにアンケート調査を実施している。それぞれの地区で、違う意見があったりしているので、委員の皆さまに提示したいと考えている。

委員：新庁舎の敷地面積について、13,000㎡が基本ライン、今の行政サービスをそのままイメージしての広さだと思うが、実際、どういう施設、サービスを導入するかについて決定されてない段階であれば、念のため広い場所にしておいた方がいいのではないかと。市民プールなどは、代替案が明確に決まっていないうことだが、こういった部分での判断を委員に期待しているかをお聞きしたい。今の状況だと、広さでしか判断できないと考えている。

事務局：次の会議で、建設規模についてお示ししたいと考えている。ICT等で、将来的に市役所の職員が減る可能性があることなども規模に関係すると考えるが、県や国からの権限委譲で仕事が増える可能性もある。大村市自体は人口が増えており、例えば、福祉関係のサービスに対応するため、対面での仕事が増えれば、ICTが進んでも職員が減るという状況になるのは難しいと判断している。考え方としては、将来の人口推移を含めて、現状の職員数を想定していきたいとしている。

現在、建設候補地に関する業務委託を実施中であり、7か所の建設候補地の詳細なデータがでてくる。前回は、4つの視点で建設候補地を選定したが、今回はその視点を増やし、その視点の中にも様々な項目を設ける予定である。そうしたデータをまとめて委員会で提示するので、地質調査の結果を含めて、総合的に判断していただきたい。

委員：7か所の候補地の中で、概略の地質調査を実施したのか。

事務局：7か所の候補地について、これから地質調査を実施する。各候補地で1か所調査する予定だが、それだけでは断層の有無の確認が難しいため、周辺の既往データや文献等を確認し、総合的に判断したいと考えている。

5 次回開催について

令和3年10月8日（金）予定